

「標準放射線医学」第5版

東京都立医療技術短期大学学長 有水 昇 監修
 金沢大学教授 高島 力
 九州大学教授 増田 康治 編集
 東京大学教授 佐々木康人

日本医科大学教授・放射線医学

隈 崎 達 夫

多少おこがましい言い方かもしれないが、私自身27年間放射線医学一筋に勉強してきた思いは強い。途中からは、日常の診療以外は興味ある領域の研究に打ち込んできた。いわば、専門馬鹿であることに少しの疑念も挟まなかった。そして現在、逆に専門馬鹿だけでは通用し難い立場にあることに戸惑いを覚えることが少なくなかった。そういうときに必ず開くのが正に本書である。私個人にとってはまがうことなき座右の書である。

学生の授業の前夜、スライドを見直しながら「標準放射線医学」を開いて、その項目に目を通す習慣はもう何年続いただろうか。「標準放射線医学」によって基礎的な知識をもう一度確かめ、自分なりの新しい工夫を加えながら学生の授業を行い、学生との質疑応答を楽しんでいる。この教科書の利用価値はいろいろな面で高い。

この度、有水教授、高島教授、増田教授、佐々木教授をはじめ新たな執筆陣を加えた「標準放射線医学」第5版が出版された。第4版に比べて頁数は少し減ったものの、内容は更に充実し、しかも理解しやすくなっていることにまず感銘を覚える。そして目だつのは写真の鮮明さと美しさである。なかでもデジタル画像を加えた消化管の画像には目を

奪われた。症例数も更に豊富となり、見落としてはならない病変を鮮やかに表示してある。消化管のX線検査では、血管造影や超音波検査と同様、あるいはそれ以上に施行者の腕が直接反映する。読影力と同時に高度な検査技術が要求される。それだけに、主だった症例については撮影角度などを加えていただければ更に理解度が深まるのではないかと感じた。

今回の改訂書には現在の放射線医学がすべて網羅されていることは言うまでもないが、その中でも核医学とMRIおよびinterventional radiology (IVR)の項にかなりの頁数がさかれ、内容的にも充実したように感じられる。それぞれ時代をリードする分野である以上当然と言ってしまえばそれまでだが、ベッドサイドに臨む学生諸君にもこの分野の知識は絶対的に必要となったことを物語っているであろう。心臓核医学は、今やこれなくして虚血心を語れないほどになったが、本書では簡潔にわかりやすくまとめられている。IVRにはメタリックステント症例が加えられていることも注目される。更に望むならば、そろそろ3次元画像なども加味してはどうだろうか。私自身学生の講義に取り入れ始めているが、鮮明な3次元画像は理解度を更に高める効果があると確信してい

る。

ひとつ気になるのは本書を利用する学生や若い医師の中に、項目ごとにばらばらにシクリップなどでめて持ち歩く人がいることである。私などは、内容の充実した厚い教科書に重厚さを覚え大切にしながら読むが、現代の風潮は少し違うのかもしれない。放射線診断学、核医学、放射線治療学に加えて工学、物理学、生物学などすべてを1冊に網羅すれば厚くなるのは仕方がないのだろうが、はたして良い解決策はあるのだろうか。

目を見張るほどの進歩に伴って膨大な知識の蓄積を要求される放射線医学ではあるが、単なる疾患と読影知識の羅列では学生の興味を引くことはできない。大切なのは放射線診断や放射線治療に際しての集学的な思考過程である。本書を一読して感じるのは、この基本的な理念が貫かれていることでもあり、しかも1枚の写真や図表に臨床の現場を反映する臨場感がみなぎっていることである。執筆者の方々の熱意と御苦労に深く敬意を表するとともに、医学生諸君のみならず現場の放射線科医師の座右の教科書として広く推薦したい。

●B5 頁896 図447 写真1537
 表159 1996 定価10,300円(税込)
 〒520

医学書院 刊(☎03-3817-5657)